

参加
無料

講演会：『ペットの災害対策』

～飼い主力と防災力をUPしよう～



【日時】9月21日(日)13:30～15:00

【場所】守山市民ホール 学習室1

【講師】平井潤子さん(NPO法人ANICE 理事長)

日本で生じた数々の災害に学び、我が家の対策を整えていきましょう。

【その他】13:00～13:30:長寿犬・猫優良飼養者、動物愛護功労者表彰



いぬ・ねこ・にんげんしあわせフェスタ

【日時】10月15日(水)～10月22日(水)

【場所】アル・プラザ草津 ヤシの木広場

【内容】うちの子写真展

災害時同行避難に関するパネル展

メッセージツリー

譲渡犬猫写真パネル展示

【日時】11月8日(土)・9日(日)

【場所】滋賀県動物保護管理センター

【内容】ワークショップ(ペットの終活セミナー)

犬猫の正しい飼い方講習会

保護犬・保護猫の譲渡会

うちの子写真展



うちの子自慢

6月下旬に譲渡されたコーギーのマヨ君のお家からお便りが届きました♡

♡好きなこと

散歩、ブラッシング、部屋でのサッカー

♡飼ってみて良かったこと

とても穏やかなマヨ、仕事で嫌なことあっても帰ってきたらマヨが笑顔でお出迎え ありがとう！



♡ひとことメッセージ

良き御縁をありがとうございます
1日でも長く一緒に過ごせるよう
健康管理も頑張っていきます！



編集後記

この子の名前は、もち♡です。とあるおたぐの縁の下でネズミ捕り用のとりもちにかかっていたところを保護されました。とりもちを除去すると、とりもちがついた部分の毛が抜けて、なんともかわいそうな姿に。そんなもち♡ですが、とっても甘えん坊で、飼育員の間では、人気のネコちゃんでした。この度、良いご縁があって、新しい家族ができました。良かったね、もち♡ ところで新しい名前は、何になったのかな？

BEFORE



AFTER



わんにゃん広場

No.118

令和7年8月15日
(一財)滋賀県動物保護管理協会
滋賀県湖南市岩根136-98
☎0748-75-6522

浜田実行委員長

満千鶴子さん

佐野所長

JAZZ for DOG & CAT

第12回「命をつなぐジャズコンサート」が、6月29日(日)に滋賀県動物保護管理センターで開催されました。「きて、みて、知って、センターの仲間たち」を合言葉に、炎天下のもと、450人の来場者がありました。

開会挨拶では、佐野所長から、センター焼却炉の廃炉や、犬猫の収容数が年々減少している状況が報告され、浜田実行委員長から、12回を迎えるイベントになった事への、感謝の言葉などが述べられました。



たきちみさと写真展



保護猫、保護犬譲渡会



今年のイベントでは、チャリティージャズコンサートその他、びわ湖わんにゃんマルシェ、たきちみさと写真展、保護猫・保護犬譲渡会や各種団体の出展も行われました。

キッチンカーや雑貨販売コーナーもあり、駐車場も満車になるほど賑わいました。



ミニコンサート



びわ湖わんにゃんマルシェ・キッチンカー





悪性腫瘍…いわゆる、がんや悪性新生物といわれるもの



2024年のヒトの死因の順位は①悪性腫瘍、②心疾患、③老衰になっています。また、イヌの死因は、①悪性腫瘍、②心疾患、③腎臓疾患、ネコの死因は、①腎疾患、②悪性腫瘍、③心疾患の順になります。この結果からヒトもペットも悪性腫瘍で命を落とす可能性が非常に高いことがわかります。これも、以前に比べると獣医療技術が進歩し、（非常に良いことなのですが）高齢化が進んでいるということが大きな要因かもしれません。

ガンの原因には色々なことが考えられ、原因不明な場合も多いですが、一般的には、老化、遺伝、免疫力の低下、受動喫煙、薬品、ウイルス、慢性炎症、肥満などの関与が指摘されています。一般的に悪性腫瘍とは、体内で異常に増殖し、周囲の組織に浸潤したり、他の臓器に転移したりする可能性のある腫瘍のことです。一般的に「がん」と呼ばれ、生命を脅かす可能性のあるものです。

ペットがこの病気になると、腫瘍の種類にもよりますが、食欲不振、体重減少、元気がなくなる、嘔吐、下痢などの症状が見られることがあります。

腫瘍の発生状況

イヌ・ネコともに1位に皮膚腫瘍、2位に乳腺腫瘍があげられます。3位にはイヌの場合、口腔内腫瘍で、ネコの場合、リンパ・血液系腫瘍の順になります。その中で、皮膚腫瘍の50%くらいは悪性と言われています。また、イヌの乳腺腫瘍の場合、悪性の割合は50%以下ですが、ネコの場合は90%くらいが悪性と言われているため要注意です。



診断

腫瘍の種類にもよりますが、固形ガン（塊のある腫瘍）に関しては、細胞診や生検により診断をすることができます。血液系の悪性腫瘍であれば血液検査や骨髄検査により診断されます。

また、腹腔内（おなかの中）にできた腫瘍に関しては、レントゲン検査、エコー検査、CT検査などによりどここの腫瘍なのかを調べることで、手術が可能なのかどうかを判断するために有効です。

以前までは、症状がでてきて進行した状態で診断されるというのが、多かったですが、近年、診断技術の向上とともに、ヒトと同様に腫瘍マーカー、マイクロRNAによる診断あるいは簡易の尿検査により腫瘍の可能性を調べるという検査サービスもあります。

治療

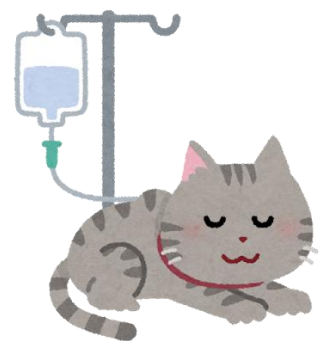
基本的に固形ガンの場合は、外科治療になります。外科治療で完治できるものもあれば、完全に切除できなかったものに関しては化学療法（抗癌治療）や放射線治療などにより補助的治療を行うものもあります。

また、血液系のガン（リンパ腫など）の場合は、基本的に化学療法により治療は行われます。

悪性腫瘍の中には、グレード（悪性度）が低いものもあり、早い段階で完全切除できれば完治できる腫瘍もあります。そのため、早期発見と治療が重要なので、定期的な健康チェックを受けることが大切です。

また、生殖器系の腫瘍に関しては、若いうちに避妊や去勢をすることで予防できるものもあります。

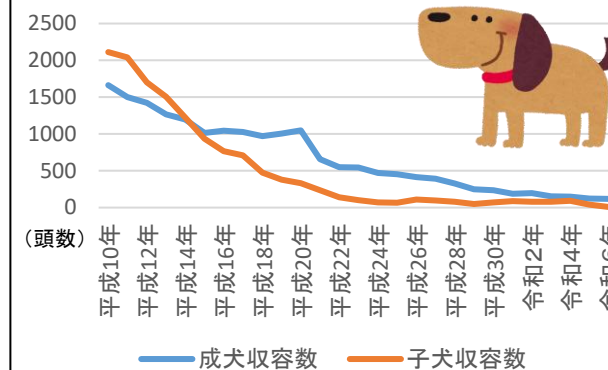
飼主の皆様は、普段からペットとスキンシップをとる中で何かへんなものをみつけた場合は、あまり様子を見ずにかかりつけの獣医師に相談することをお勧めいたします。そうすることで助けられる命があるかもしれません。



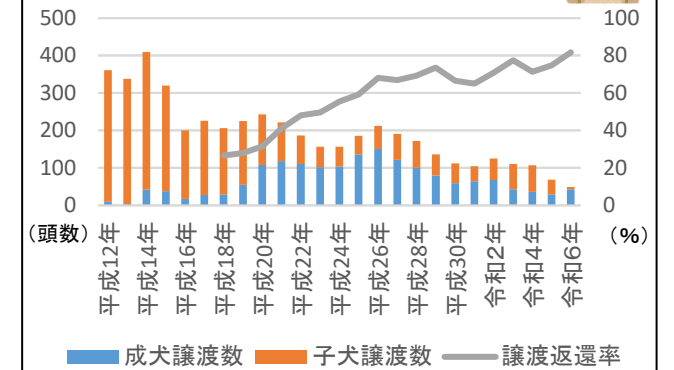
滋賀県における犬猫の収容数と譲渡数の変化

令和6年度は、犬の収容数126頭、譲渡数49頭で、猫の収容数301頭、譲渡数は157頭となりました。犬猫共に年々収容数は減少しています。子犬は、平成15年に成犬の数より少なくなり、譲渡数は、平成21年に成犬が多くなりました。猫の譲渡数は近年150頭ぐらいを推移していて、犬猫ともに譲渡率としては上がってきています。（滋賀県動物保護管理センターの統計）

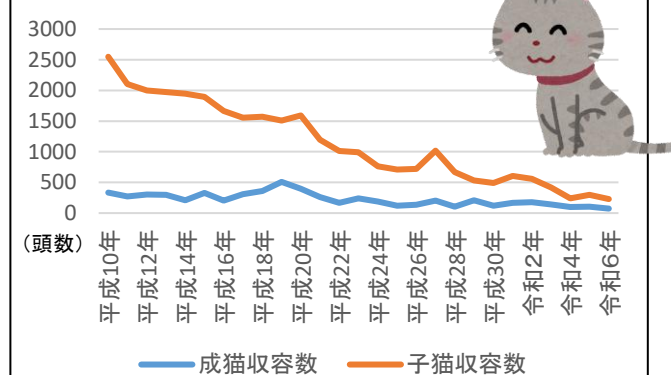
犬の収容数の推移



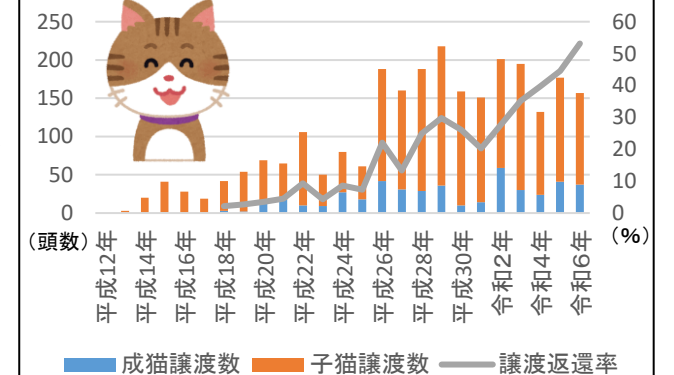
犬の譲渡数と譲渡返還率の推移



猫の収容数の推移



猫の譲渡数と譲渡返還率の推移



狂犬病予防注射会場で街頭啓発

各市町で狂犬病予防強調月間に集合注射が実施されています。その会場において犬の正しい飼い方を推進する街頭啓発を実施しました。今年は、16会場で139部の資料を配布しました。

年々、動物病院で直接受けられる犬も増えて、会場で受ける人も少なくなっている様です。

飼い主さんが、制御できない犬や注射を嫌がる犬などもありました。飼い犬のしつけや場所に慣らす必要性を感じました。

